

学校名	研究課題	研究手法
城南中学校	教科一般	学習形態の工夫

## 1 研究の重点と具体的な取組

### (1) 重点1 学習形態の工夫と改善

金沢型学習スタイルに基づく各教科の授業においてグループ学習やペアワークなど学習形態の工夫について研究する。

### (2) 重点2 研究組織の体制づくり

学習形態の工夫について、各教科の実践記録や指導案データをサーバーに整理・保存し、次年度の研究や協議に活用できる体制を整備する。

## 2 取組の検証

		ほぼ毎回	単元で2回以上	単元で1回	ほぼ行わない	肯定的割合
1	どのくらいの頻度でグループ学習やペア学習を行っていますか？	44%	56%			100%
		とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	全く思わない	肯定的割合
2	グループ学習やペア学習を行うことで生徒どうしの関わりにより影響があったと思いますか？	19%	81%			100%
3	生徒の学力向上にグループ学習やペア学習は効果的だと思いますか？	19%	69%	13%		87%
4	主体的で深い学びにグループ学習やペア学習は効果的だと思いますか？	19%	75%	6%		94%

・学校評価アンケート(学習形態に関するアンケート 平成30年12月実施 対象者教員)

- ・取組の結果、全職員が単元に2回以上グループ学習やペア学習を行っており、4割以上の職員がほぼ毎回の授業で学習形態を工夫していることが判明した。
- ・ほぼ9割以上の職員が学習形態の工夫によって、生徒同士の関わりにより影響があり、学力向上や主体的で深い学びにもよい影響を与えていると感じている。
- ・12月末に実施した生徒に対するアンケートでも「意見を聞き考えを深める活動がある」という質問項目で5教科で平均して95%以上の肯定的な回答があった。また、生徒の自己肯定感を問う設問も前期76%から80%へと向上がみられた。

## 3 成果と課題

- ・本校の学校研究主題「自ら学び、考え、豊かに表現できる生徒の育成」～主体的協働的な学びからの学力向上をめざして～の実現に向けて、この取組が学校の組織力や教員の指導力の向上に役立った。
- ・生徒の学力向上に関しては、来年度の全国学力調査や県の基礎学力調査で検証を進める必要がある。自己肯定感に関しては少しずつ向上していることから互いを認め合う活動を多く取り入れる必要がある。
- ・学習形態の工夫については、今後さらに多様な実践を継続していき、その内容を整理・保存することが必要である。また、小中一貫教育を含め研究や協議の場を充実させることで授業力の向上を図る必要がある。